

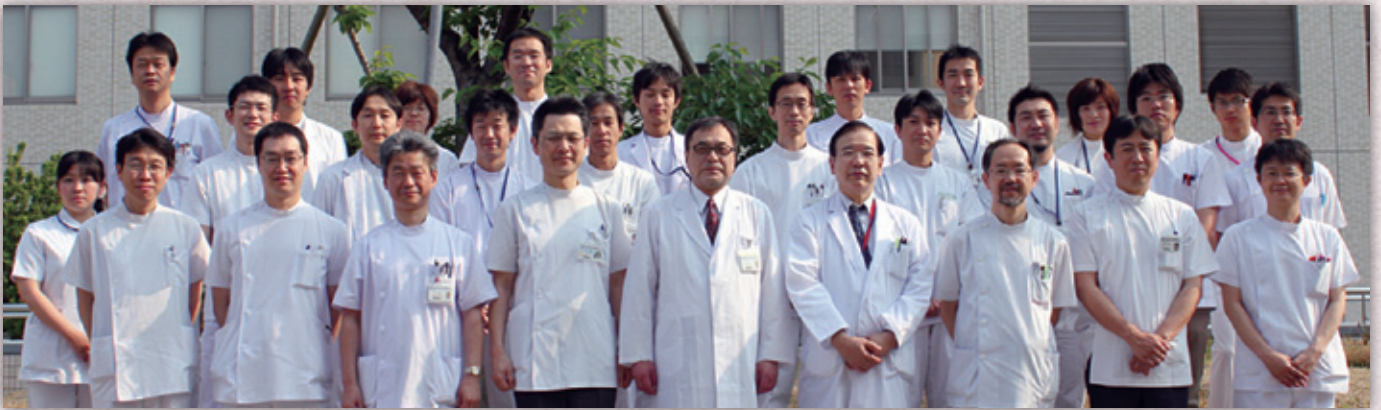
地域医療連携室 だより

Vol.6

消化器・総合外科 教室紹介

最高水準の外科治療を目指して

消化器外科・小児外科・乳腺外科
中島祥介



平素より、多くの貴重な患者様、症例を御紹介頂き、誠に有難うございます。私どもは、県内は元より、近隣他府県医療施設からも高難度外科治療を必要とする症例を広く受け入れさせて頂いております。

現在、当科は約 30 名の医員が丸となって、外科治療のみならず、内視鏡等の諸検査ならびに治療、化学療法等に日々奮闘しております。肝癌、膵癌等を対象とする肝胆膵、食道、胃癌に対する上部消化管、大腸癌、炎症性腸疾患等に対する下部消化管、小児外科、乳腺外科の5つのグループより構成されます。さらにグループの枠を超えて、移植再生医療にも取り組んでおります。手術件数は、年々増加しており、昨年は約 750 件の手術を行いました。本年は 800 例を超えるものと予想しております。症例の大半が消化器癌や乳癌などの悪性疾患ですが、炎症性疾患、小児疾患など専門性の高い良性疾患も対象としております。また最近特に、心疾患、呼吸器疾患などのハイリスク合併症を有する症例も増えており、麻酔科、放射線科、消化器内科、小児科等の他の診療科や関係各部署との連携を深めて、集学的治療、高次医療を実践しています。

私どもの目標は、奈良県で実践する世界最高水準の外科治療であります。そのために日常診療を何より最優先に、患者さんの満足度を高めることができるように日々努力しています。その他、学会活動はじめ、基礎的研究のみならず、臨床研究にも力を入れており、全国多施設共同臨床試験にも積極的に参加しております。同時に、奈良医大のこれまでの歴史、オリジナリティーも重要と考え、学内関係各科との共同臨床試験にも精力的に取り組んでおります。

現在、全国有数の臨床実績をあげつつあります。これも偏に各御施設の先生方、関係の方々の御尽力の賜物と、心より深く感謝申し上げます。現状に留まることなく、より一層の高度な診療の充実を図って参ります。お困りの症例、外科手術を必要とする症例など、是非とも私どもまで御紹介頂ければ幸いと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

高度救命救急センター紹介

高度救命救急センター 関 匡彦

当院高度救命救急センターは重症救急疾患、重症外傷、広範囲熱傷、切断指、急性中毒、院外心肺停止などを対象に全国で 27 施設のみである高度救命救急センターのひとつとして、中南和地域だけでなく県内の重症患者さまを受け入れています。(軽症・中等症である 1 次・2 次救急患者さまは原則として対象としておりません)

病床数は ICU (集中治療室) 10 床と HCU (高度治療室) 30 床で、奥地一夫センター長以下 14 名のスタッフ医師と研修医、および約 70 名の看護師で運営しております。昨年度の実績は救急車受け入れ数 836 件で、そのうち重症疾患が 620 件、緊急手術 128 件でした。病院外心停止患者は 191 名でした。

平均在院日数は 11.0 日 (平成 23 年度) で、常に救急搬送に対応できるように病床管理を行っております。そのために、病状に応じて早期の転院をお願いしております。



また、地域の病院前救護の質の向上として、救命救急士の教育・病院実習や DMAT といった災害医療に対しても取り組んでおります。

高度救命救急センターの役割を果たすうえでも、地域の医療機関の皆様との連携と協力体制が不可欠と考えております。

今後も救命センターの運営に対しまして、ご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



感染症センター（感染制御内科）紹介

感染症センター 前田光一

感染症センターは、現代の感染症診療に対する多くのニーズに応えるべく平成15年に設立され、早や10年目に入ろうとしています。現在、三笠桂一教授を筆頭に11名の医局員が在籍し、外来診療と入院診療、そして院内での感染症の診断・治療方針のコンサルテーションを行うとともに、院内感染対策活動や抗菌薬適正使用を含めた感染症教育、さらに耐性菌をはじめ臨床的課題を中心とした研究も行っています。



当センターは「感染制御内科」を標榜し、外来診療では臓器にとらわれない一般感染症から、HIV感染症、輸入感染症や新興・再興感染症まで幅広く診療を行っており、コンサルテーションを除いても1ヵ月に500例以上の感染症症例の診察を行っています。さらに、ワクチン外来や本学病原体・感染防御医学講座のご協力を得て寄生虫外来を設けるなど、さまざまな分野における感染症診療に対応しています。また、近く渡航外来も新たにオープンする予定です。

入院施設としては、一類感染症対応の2床と空気・飛沫感染対応の7床を含む14床の病床を有し、第1種感染症指定医療機関、AIDS中核拠点病院、日本感染症学会モデル研修施設として認定されています。昨今のコンプロマイズドホストの増加にともない院内では難治性感染症も増えていますが、それに対してコンサルテーション業務を通じて早期治療による入院期間の短縮や治癒率の向上、予後の改善に貢献しています。また今年度からは感染対策地域連携として、近隣の病院間で院内感染に関するカンファレンスや相互チェックも行っています。

このように当センターは、診療・教育・研究を含む総合的な感染症学ができる全国でも数少ない大学での部門として、グローバル化・多様化した感染症が大きな社会問題になっている現代において大きな役割を担っているものと自負しています。これまでもすでに地域の多く医療機関から、感染症を疑う症例についてご相談・ご紹介をいただいておりますが、今後さらにその連携を通じて、奈良県の感染症診療を充実させるようにしたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

第8回 地域医療連携懇話会 開催報告

平成24年10月4日(木)午後6時より奈良県立医科大学蔵書館にて、第8回地域医療連携懇話会を開催いたしました。「地域医療連携パスの成果と今後」をテーマに、担当医師および事務担当者から地域医療連携パスの目的・現状をはじめ最近の治療動向、今後の課題等についてご講演いただき、その後、意見交換が行われました。参加者からは、これからのパスの方向性や、今後増加が予想される在宅医療における連携について多くのご質問・ご意見をいただきました。県内37医療機関から、医師、看護師、MSW、事務等100名近くの方々にご参加いただき、地域医療連携パスへの関心の高さがうかがえました。



アンケートより



- 他病院の連携の状況がよくわかった
- 奈良県統一のパスが運用できるようにしてもらいたい
- 今後パスの導入を考えているので参考になった
- 地域連携について種々の意見を聞いたことで参考となる部分が多かった

・・・などのご意見・ご感想をいただきました

お知らせ ～連携登録医制度について～



本院では、地域の医療機関との連携を強化し、患者さんのニーズに応えた一貫性のある医療を提供するため、連携登録医制度の実施を検討しています。

患者さんの紹介・逆紹介などで、本院と連携を図り協力体制をとっていただける地域の医療機関の先生方を連携登録医とするもので、学術講演会等の医学集会のご案内や医大附属図書館がご利用いただけます。また、登録医には「連携登録医証」をお渡しするほか、登録医の一覧を本院ホームページに掲載し周知させていただく予定です。

なお、12月から一部の診療科においてトライアル実施をしておりますが、全診療科に拡大した本格実施の時期が決まれば、ホームページ等で募集のご案内をする予定です。

編集・発行 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室
TEL 0744-22-3051 (代表) FAX 0744-23-9923
URL <http://www.naramed-u.ac.jp/~hp/> 発行/2012年12月